『中部大学リベラルアーツ論集』5, 36-55, 2023

国際的再生型事例—タイでの過去生記憶を持つ子どもの事例—

大門正幸

An International Case of the Reincarnation Type:
A Case of a Child Claiming to Have Lived in Thailand

OHKADO Masayuki

Abstract

This article reports an international case of the reincarnation type. The participant of the study is a Japanese child living in the western part of Japan, who, at the age of 5 years and 5 months, started talking about his past-life memories in Thailand as a police officer. He made numerous statements and a number of utterances which he claimed to be the language he had used in his past life. He kept talking about the life for more than a year and even at the time of the writing of this article (December, 2022), he appears to have some vivid memories. The basic part of the story has been consistent and seems to be reflecting real experiences in a different country from Japan. Some of the knowledge he has is quite specific and appropriate for the person the child claims to have been his past-life personality. Also, some of the words the child uttered appear to be authentic Thai (language). However, the information provided by the child is not specific enough and the case remains unsolved at present.

キーワード：再生型事例、日本人の子ども、タイの過去生
Key words: case of the reincarnation type, Japanese child, past life in Thailand

1.　はじめに

1960 年代に本格的に開始された再生型事例（case of the reincarnation type、いわゆる「生まれ変わり」事例）は、現在、475 事例についてその調査・結果が公にされている[1]。また、当該の研究を推進しているバージニア大学知覚研究所には 2,600 にのぼる事例が収められており、分析されたデータは順次コンピュータで検索可能なデータベースに収録され、事例全体に見られる様々な傾向・特徴が明らかにされつつある（大門, 2021）。このデータベースの分析を通じて明かされた興味深い特徴のひとつに、国境を越える事例の少なさを挙げることができる。本稿の執筆時点で利用可能であったバージニア大学のデータベースには 2,248 件の事例が収録されていたが、当事者および過去生の人物の出身国が入力されている 1,500 件のうち、両者の出身国が異なる、いわゆる国際事例（international case）は 92 例（6.1%）に過ぎなかった。

日本人の再生型事例を報告してきた筆者は、これまで 2 件の国際事例を報告している。一つは、イギリスの料理店の子どもだったと語ったトモ君の事例（大門, 2011; Ohkado, 2013）[2]。もう一つは、インドで火事が原因で死亡したと語ったアカネちゃんの事例である（大門, 2012）。本稿では、3 例目にあたる日本人の国際事例について報告する。

2. 調査のきっかけとその概略

対象者は、関西圏在住の男児ナツキ君である。ナツキ君は 2016 年 5 月、薬剤師を務める両親の長男として生まれた。家庭の宗教は浄土真宗であるが、年に数度の墓参以外は宗教的な行事はほとんど行っていない。生まれ変わりに関しては、両親は、テレビなどで目にした時に「あったら面白い」と思う程度の認識であった。ナツキ君には 2 歳下の弟、5 歳下の妹がいる。ナツキ君の過去生記憶と関係するタイについては、家族の誰も興味を持っておらず、旅行も含め接点は皆無であった。

この事例について知ることになったのは、2021 年 11 月 29 日に筆者が母親のアヤさんから受け取った次のような電子メールを通してである。

> はじめまして、私は〇〇に住む 3 児の母です。
> 最近、私の 5 歳の子供が、『前のママにも･･･』と、突然言い出し、子供の言葉で言いますと、前に生きていた時の話を聞かせてくれました。どうやら、自分が前世で死んで、私の所に産まれてくるまでの事を覚えているようです。
> ただし、先生方の求めるような人名、地名は覚えておりません。(何か言おうとするのですが、上手く発音できないのか言葉に詰まる様子でした。)
> 我が子の場合、私に話をするよりも先に幼稚園のクラスのお友達に前世の話をしてしまったようで、前に生きていた時の記憶を持っているのは自分だけだ。恥ずかしいと思うようになり、まだ 5 歳の小さな心に初めて大きなキズをつけてしまったようです。
> 前世に関係しているのかどうか全くわかりませんが、うちの子の場合、幼稚園の椅子は特定の 1 つにしか座れず、みんなとフルーツバスケットのような遊びが出来ません。幼稚園の床も去年の教室の一部分には座れなかったようです。幼稚園の先生方も幾度となく本人に理由を聞いてみたのですが、結局はっきりとした理由は今も分かりません。
> ただし、家で家族と出かけたりした時など家族の中でいる時にはそのような事は一度もありません。それだけの事と言えば、それだけの事なのですが、この子にしては奇妙な行動だなと思っております。
> 本人には、そのような前世の記憶をもつ子は数は多くないけど、他にもいる事を伝えました。また、考古学者、古生物学者など、研究している人に興味がある子ですので、前に生きていた時の記憶を研究している人もいるという話もしました。すると、子供が会ってみたい、他にも同じような子は本当にいるのか？と、興味を示しました。このまま放っておいても消えてしまう記憶ですし連絡せずに記憶が消えるのを待つか悩んだのですが、今もおそらく悩んでいますが、今回、条件には当てはまりませんが、子供自身の何かのきっかけになるかもしれないと思いご連絡させていただきました。

このメールをきっかけに何度かメールのやり取りをした後､2021 年 12 月 8 日に zoom を通して本人と母親のアヤさんにインタビューを行った。その後、インタビューを補完する形でアンケートに答えてもらったり（2021 年 12 月 15 日）、不定期にナツキ君の語った内容をメールや動画で送ってもらった。また、ナツキ君の語ったタイ語らしき発話について、タイ人の Kiat Chanyavilas 氏に確認してもらうと同時に zoom を通してナツ

キ君と話をしてもらった（2021 年 12 月 27 日）。また、ナツキ君の語った内容およびタイ語らしき発話について、再生型事例に関する論文（Wongsangkul, 2021）も発表している Usa Wongsangkul 氏に判断を仰いだ。また、最初のインタビュー後にアヤさんのメールや動画を通して聞いた内容を中心に再度インタビューを行った（2022 年 10 月 27 日）。

3. ナツキ君の語った記憶と記憶に関連する振る舞い

ここでは、12 月 15 日のインタビューとその後のアンケートへの返答を中心にナツキ君の語った過去生記憶、およびその他の記憶の内容や、その記憶と関連する振る舞いについて記す。メールおよび動画で筆者に伝えられた内容については、基本的に補遺に示すに留めるが、特に重要だと思われるものについては、本文でも言及する。

3.1 過去生記憶

ナツキ君が過去生記憶について話し出したのは 2021 年 11 月 13 日、5 歳 5 ヶ月の時である。ナツキ君が携帯電話を使って妹の写真を撮りながら「前のママもこうやって写真をとってくれてたんだよね」と発言。台所で洗い物をしていたアヤさんが驚いて「前のママってどういうこと？」と訊くと、ナツキ君は「自分は大人になって死んだ。あつすぎて死んだ。2 回は耐えたけど、3 回目は耐えられなかった（その後のナツキ君の話によると川で溺死したように思われる。それをうまく伝えられずこのような表現になったと思われる）。死ぬ時は苦しかった。もっと生きたかったのにって思った」と答えた。

「前のママって？」というアヤさんの問いかけに対してナツキ君は「うっかり話してしまった！」と言わんばかりの反応を見せたので「何かあったの？」と訊くと、半年ほど前の幼稚園での出来事について、「幼稚園でお遊びの時間にクラスのおともだちに前に生きてたん覚えてる？って訊いたら、前って何？　前になんか生きてないで？って言われた。それで前に生きてたん覚えてるのなつきだけやねんなって思った」と語った。このことがきっかけで、過去生の記憶があるのは自分だけであることを知り、記憶を持っていることはアヤさんにも言えない恥ずかしいことであると認識したようであった。

いつから記憶があったのかアヤさんが訊ねると、「ぶどうぐみさんの時から前に生きていたことを覚えていた」との返答。2 歳児クラス（2〜3 歳）の時から記憶について自覚していたようであった。

さらにナツキ君は「なつきは警察官で隊長をしていた。みんなを率いていた。自分が一番背が高くて力持ちだったから」（表 1 の(6)を参照）と語った。この言葉に、ナツキ君が当時「なつきは力持ちだから、なつきが持つで！」とよく言っていたことをアヤさんは思い出した。

アヤさんは、ナツキ君の発言に最初は驚き、空想ではないかと思ったが、同時に本人が知るはずもないことを真剣に語る姿に空想以上のものがあるとも感じた。

過去生記憶を持っていることを恥ずかしく思っていたナツキ君に対して、アヤさんはそのような記憶を持つ子どもは他にもいること、恥ずかしく思う必要はないことを話した。それを繰り返すうちにナツキ君は積極的に過去生の話をするようになった。その主要なものを表 1 にまとめる。

表 1：ナツキ君の語った過去生記憶

(1)	自分の名前 :「ピジョ（または、ピチャ）…　イツーキィ」（真ん中は思い出せない）アンケートの

	時点では「イツキ」。残りの部分については「20220116 のメールより」。あだ名は「Gao（ガオ）」だった（動画 20220323a, b より）
(2)	家族構成：母親、父親、姉、兄、自分、弟、妹。結婚後は妻と子供 1 人。いずれも名前は不明。
(3)	住んでいた場所：タイ国政府官公庁が提供しているタイの観光案内ページ amazing THAILAND に掲載されている地図を見せたところ、北部のランパーンを中心とする地域を指さした[3]。
(4)	住んでいた時代：わからないが、三輪の車が走っていた時代。 小さい頃は車がなく、荷物を運ぶためにゾウを飼っていた時代。（いずれも後述）なお、20220716 のメールによれば、生年は仏暦の 2,444 年（西暦 1901 年）。
(5)	住んでいた場所の様子：家の周りで動物を飼っていた。バスで少し行くと街に着いた。ビルがあった。消防署や警察署もあった。海につながる川、湖があった。
(6)	普段何をしていたか：警察学校に行っていた。警察の仕事をしていた。一番背が高くて力持ちだったので、隊長をしていた。勤務していた警察署は 5 階だった。（20211213 のメールによれば、本当は「角がある形になって、隣には牢屋があった」と言いたかった。）20220707 のメールによれば、隊長達が集まって国の名前を「タイ」（タイ王国）と決めた、と語り、同年 6 月 25 日には、その時に使われた建物の絵も描いている（図 11）。（タイ王国の名称が決定されたのは 1932 年の立憲革命においてであり、(4)に記した「1901 年生まれ」が正確であれば、30 歳か 31 歳の時の出来事である。図 11 は『人民党宣言』が出されたアナンタサマーコム殿を描いたものかも知れない[4]。）日本軍と協力したこともあった（20220112 の記録、20220113 の動画）。
(7)	好きだったこと（楽しかったこと）：警察の仕事
(8)	嫌いだったこと（悲しかったこと）：泥棒が捕まらないこと
(9)	好きだった食べ物：カレー。
(10)	嫌いだった食べ物：肉（昔の肉は硬かった）、ニンニク（家中が臭くなるから）、白菜（今も嫌い）
(11)	警察の仕事について：自分は警察官で、船やボート（浮き輪のように空気が入っているやつ。ホバークラフト？）、水上バイクのようなもの（下にヘリコプターの下についているようなものがついていて、またがって乗る）に乗っていた。
(12)	泥棒について：泥棒は川の中にあるダイヤのようなお宝を盗む。盗まれないように偽物を置いておくけど、泥棒も研究して、騙されないで本物を盗んでいく。川の水を取ってから、スコップでザックザックと掘ってとっていく。お宝はお金だけど、とってはいけない。川を守るために必要。
(13)	ゾウについて：警察学校で象に乗った。野生のゾウに乗ることはできない。背中に人を乗せることを嫌がるので危険。野生じゃないゾウには乗ることができる。小さい頃は車がなかったので、家でゾウを飼っていた。馬も飼っていた。
(14)	乗り物について：昔のバスは前のほうが出ていた。今のバスは前が出ていない。昔の車は 3 つのタイヤ。今は 4 つ。昔の小さいトラックはタイヤが 3 つ。大きいトラックは 4 つ。
(15)	死んだ時の状況：川でボートに乗って泥棒を捕まえようとしていた。大きなとがった石があって、ボートがぶつかった。ボートに穴が空いて沈没した。顔にゴーグルみたいな目も口も覆うものをつけてなくて死んだ。（溺死？）
(16)	前の人生についてどう思うか：嬉しかった。前にも生きていたことが嬉しい。
(17)	前の人生でやり残したことはあるか：もっと警察の仕事をしたかった。もっと生きたかった。前のママに会いたい。
(18)	死んだ後のことを覚えているか：遺体を見た、葬儀を見た、などということはないが、死んだ後、空の上に行った。これ以降については次節（「中間生記憶」）で触れる

(19)	現在の母親との関係：「前のママ（母親の過去生での人物。過去生の母親ではない）」に関する言及は随所にあるが、20220707 のメールによれば警察官の服を洗ってくれるクリーニング店の女性であった。2022 年 6 月 25 日にナツキ君が描いた絵を図 12 に示す。

面談時にナツキ君が書いてくれた絵を図 1〜図 7 に示す。また、面談後の 2021 年 12 月 10 日に描いてくれたより詳しい警察署の図を図 8 として、また 12 月 10 日と 11 日にかけて作成した警察署の模型を図 9、図 10 として示す。図 11、図 12 はそれぞれ表 1 の(6)と(19)で言及したものである。これらの画像は、タイの警察官としての記憶が相当鮮明に、また具体的に残っていることを示唆している。



図 1： 警察官の服

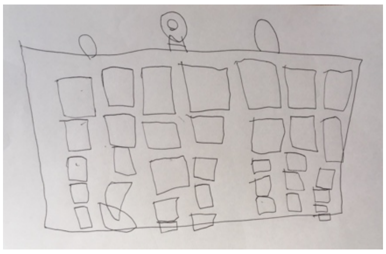


図 2： 警察署の建物

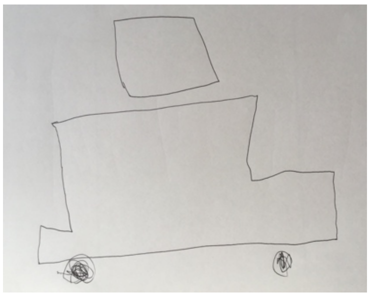


図 3：パトカー

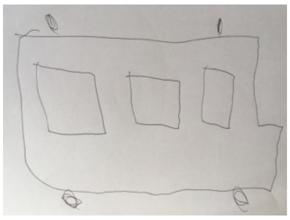


図 4： バス図

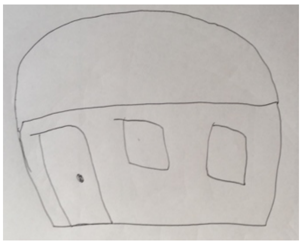


図 5： 住んでいた家図

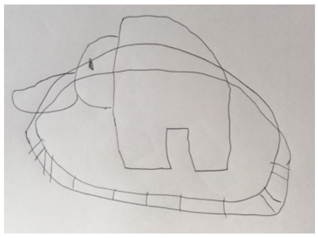


図 6： 飼っていた象

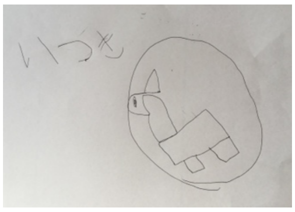


図 7： 飼っていた馬



図 8： 警察署

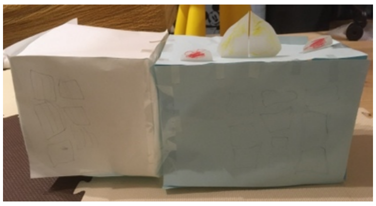


図 9： 警察署の模型（正面）



図 10： 警察署の模型（上）

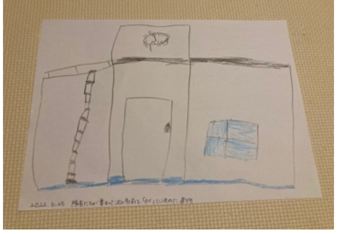


図 11： 表 1 の(6)参照



図 12： 表 1 の(19)参照

アヤさんの記憶によれば、ナツキ君が過去生について発言するより前に見せた振る舞いで、過去生記憶を反映していた可能性があると判断できるものが 3 点ある。

ひとつは、前述のように、3 歳頃に「ナツキは力持ちだから」と重いものを持ち上げようとすることが頻繁にあった点である。表 1 の(6)で示したように、ナツキ君の中では自分は屈強な警察官のままだったと考えられる。

2 つ目は、水に対する抵抗感である。ナツキ君は 3 歳半頃からスイミングスクールに通っているが、ずっと水に潜ることができなかった。ところが、過去生について話をし出した後、潜れるようになった。過去生記憶を持つ子どもが過去生での死因と関係する事項に対して恐怖感を持ったり恐怖症を示すのはよくあることである（Stevenson, 2001）。また、子どもが語る過去生記憶に向き合うことが過去生に起因する問題の解決につながる可能性があるが（Bowman, 1997）[5]、ナツキ君の水に対する抵抗感の消失もその一例にあたるのかも知れない。

振り返って見た時に過去生記憶と関係していたのかも知れないと思われた振る舞いの 3 点目は、4 歳頃から始まった夜泣きである。この頃から 1 週間に 1 回程度、夜中に頻繁に泣いて起きていた。アヤさんは寝ているナツキ君が「ドドド　ドドド　ドドドドド　ドーンドーン」と銃声のような寝言を言うのを聞いており、誰かと戦う怖い夢を見ているのではないかと思っていた。しかし、過去生の話をするようになった頃から夜中に起きることがなくなった。硫黄島の戦いで撃墜されたアメリカ軍パイロットの記憶を有していた James Leininger 君が自分の飛行機が撃墜される場面を思い出して激しい夜泣きを見せたように（Leininger & Leininger, with Gross, 2009）、ナツキ君の夜泣きも過去生での死の場面の想起と関係していたのかも知れない。また、夜泣きがおさまったのは、水に対する抵抗感の消失と同様のメカニズムによるものなのかも知れない。

3.2　中間生記憶・胎内記憶・誕生時記憶

ナツキ君は、過去生記憶を語り始めたのと同時期に、表 2 に示すような中間生記憶、胎内記憶、誕生時記憶についても語っている。

表 2：ナツキ君の語った中間生記憶・胎内記憶・誕生時記憶

(1)	死んでから空（雲の上）に行った。(20220730a, b のメール。2022 年 10 月 27 日の zoom インタビューでは死んだ後、最初は地面の下に潜ると語っている。以下の(7)を参照。)
(2)	空は明るい場所で、そこにいるのは楽しい気持ち。自分と同じような存在がたくさんいた。
(3)	空の上では、自分と同じような存在（友達）と、生まれることや生まれないことなどおしゃべりをした。
(4)	空の上からは地上の様子が見えた。屋根が見えたし、屋根や壁は透明になって中が見えた。
(5)	空（雲）の上でクリーニング店の女性（表 1 の (19) 参照）を探した。いないと思って下を見たら、その女性が赤ちゃん（今の母親アヤさん）になって生まれているのを知った。その女性を時々見ていた（ナツキ君は、自転車に乗っているところ、妹と遊んでいるところを見た、と語っている)。その女性が大人になった頃、空の上にいる魂の姿をしたおじいさんのような人に「早く生まれなさい。そうしないとやり直しだ」と急かされた。「早いもの勝ちだから早くしないと」と思ってはいたものの、なかなか勇気が出なかったので青い箱にリボンのついたものをもらった。その箱の中には青いボールが入っていた。それを持って母親のお腹の中に向かった（20220126、20221224 の記録)。
(6)	3 人でお腹の中に向かっていき、2 人がお腹の中に入り、しばらくして残ったのは自分 1 人だっ

	た。（ナツキ君を孕った時、排卵誘発剤を使用していた。医師から 2 個排卵しており、1 つは大きさも十分あるが、もう 1 つは小さく十分成長していないのでおそらく着床しない、また可能性は低いが双子になるかもしれない、と言われた。）
(7)	人は死んだら一度地面の下に行く。カエルの卵みたいに下にいる。そして、生まれたいと思った人が空の上に行く。そして母親を選ぶ。やっぱり生まれたくないと思ったら、また地面の下に行く。母親を選んでもお腹に入れなかった人はまた空の上に行く。（20220116 記録 b）
(8)	雲の上では、いつ生まれてもよい。早くても遅くても。あまりに遅いと、早くして、すぐ生まれてと言われる。それでも生まれたくないときは地面の下からやり直す。
(9)	ママはすぐに選ばなくてもいい。先に選ぶと誕生日が早い。選ぶのが遅いと誕生日が後になる。
(10)	（お腹に入るのは）早いもの勝ちだから、いいなと思ったらすぐに行かないといけない。
(11)	100 くらいの数がふたつに分けられて、半分が先に行き、残りはゆっくり生まれ変わる。
(12)	沢山人が死ぬと空が死んだ人でいっぱいになるから面白い。
(13)	ママのお腹にはすっと入った。
(14)	ママのお腹に入って一人暮らし。二人暮らし（双子？）もあるけどしんどい。ぎゅうぎゅう。だから一人暮らし。
(15)	お腹の中では、体を丸くしてごろごろしていた。ごろごろして遊んでいた。
(16)	ママがごはんを食べたら（食事をしたら）、自分にもごはんがきた。何のごはんかは忘れた（お腹の中から見えたわけではないけど、わかった）。
(17)	ママが白い薬を飲んでいた（お腹の中から見えたわけではないけど、わかった）。（実際、白い薬、ウテメリンとマグミット、を飲んでいたが、第二子、第三子の時も飲んでいたので、それを見ていた可能性はある。）
(18)	生まれた時はびっくりした。タオルで拭かれ、抱っこされてびっくりした。

(1)-(13)は中間生記憶、(14)-(17)は胎内記憶、(18)は誕生時記憶である。中間生記憶を語る他の多くの子どもたちと同様（Ohkado & Ikegawa, 2014）、空で母親を選んで生まれてきたと語っている。また、Ohkado & Ikegawa (2014) で報告しているある女児の事例のように、現在の母親について、子供の時から知っていると語っている点も興味深い。現在の母親が過去生ではクリーニング店の店員であったと語っているが、強く好意を寄せていた人物だったであろうと思われる。

4. 語られた内容の検討

表 1、表 2、補遺のデータが示すように、ナツキ君がタイについて豊富な知識を有している点については疑いの余地がない [6]。しかも、ナツキ君が語るように、その過去生が仏暦 2,444 年（西暦 1901 年）生まれの人物だったとすると（表 1 の(4)）、タイの国名の決定や日本軍との協力（表 1 の(6)）などの歴史的事実は、その人物が生きた時代の出来事と符号する [7]。

ナツキ君が語ったタイ語らしき言葉（人物名も含む）については、音声のみを聞いてもらったタイ語の母語話者 Kiat Chanyavilas 氏には同定できなかったものの、当該の言葉が発せられた文脈を提供した上でローマ字化した文字を検討した Usa Wongsangkul 氏は表 3 のように判断している [8]。

表 3：ナツキ君の語った「タイ語（人物名も含む）」について

(1)	Pijo/Picha　itsuki（自分の名前）（表 1 の(1)）	ありうる
(2)	Adwin（人名）（20211227a）	タイ人の名前ではない
(3)	Andoko（人名）（20220116 記録 a、20220117 記録）	タイ人の名前ではない
(4)	eksen（家に来る）（20211227b）	タイ語ではない
(5)	Hawin（警察学校の名前）（20211231）	実在する Huan Hin Police station か
(6)	pon tam eg （意味は不明）20220101b, c、20220103 記録、20220116 記録 a）	Police General を意味する Pon Tamruad Eg ではないか
(7)	kupon（お寺の名前）（20220105d）	Wat Kuubon という寺がバンコクにある
(8)	abin（硬いもの）（20220224a）	タイ語ではない
(9)	gao（皆にそう呼ばれていた）（表 1 の(1)、20220323a, b, 20221008 メール）	「やり続ける」という意味でニックネームになりうる

タイ語の可能性がある(1)、(5)、(6)、(7)、(9)の中でも印象的なのは警察長官（Police General）を示す(6)である。本人にとって重要な肩書きだったと考えれば、動画や記録に何度も登場するのも理解できる。(2)の Adwin はプラユーン・パモンモントリー（Prayoon Pamornmontri）の写真を、(3)の Andoko はポンファトマネー・サワスディワット（Pongphatmanee Sawasdiwat）という人物の写真を指しての発言である [9]。ナツキ君の発話はタイ語の発音とはかけ離れているように思われるが、特に後者についてはタイ語で発音した場合、‘Pongphatomanee’に含まれる‘phat’の部分の母音、‘nee’の‘n’音、‘diwat’の‘d’音に注目すると‘Ando-’と聞こえないこともない。また、最後の‘t’は閉鎖音であり、同じ閉鎖音の‘k’と混同した可能性も考えられるので、文字から判断されるよりは実在の人物の名前と類似していると言えるかもしれない。

第 15 代警察長官であるサワイ・サワイセーンヤーゴーンの写真を見ながら自分も「隊長だった」と述べている（20220103 記録）のを手掛かりに、歴代の警察長官でナツキ君が語る人物と一致する者がいないか検討してみる [10]。

サワイ・サワイセーンヤーゴーンの生没年はそれぞれ 1904 年、1980 年であり、ナツキ君の語る過去生の人物と同時代の人物だと考えられる [11]。ナツキ君は戌年に死んだと語っているので（20220115 記録）、没年としては戌年にあたる 1922 年（21 歳）、1934 年（33 歳）、1946 年（45 歳）、1958 年（57 歳）、1970 年（69 歳）、などが考えられるが、長官になったことや任務の途中で死亡したらしいことを考えると没年は 1958 年とするのが妥当ではないかと思われる。このような観点からサワイ・サワイセーンヤーゴーンの前後の長官の在任期間および生没年について調べた結果が表 4 である。

表 4：サワイ・サワイセーンヤーゴーンの前後の警察長官

代	名	在任期間	生年	没年
10	ルワン・アドゥンデートチャラット	1936 年～1945 年	1894 年	1969 年
11	プララームイントラー	1945 年～1946 年	1890 年	1955 年
12	プラ・ピチャーンポンギット	1946 年～1947 年	1893 年	1959 年
13	ルワン・チャートドラガーンゴーソン	1947 年～1951 年	1902 年	1995 年
14	パオ・シーヤーノン	1951 年～1957 年	1910 年	1960 年

15	サワイ・サワイセーンヤーゴーン	1957 年〜1959 年	1904 年	1980 年
16	サリット・タナラット	1959 年〜1963 年	1908 年	1963 年
17	プラスート・ルチラウォン	1963 年〜1972 年	1911 年	1984 年

表の中にはナツキ君が語る「ピジョ／ピチャ　イツキ」らしき名前は見当たらない[12]。生年についてであるが、ナツキ君の語る 1901 年に最も近いのは 1902 年生まれのルワン・チャートドラガーンゴーソン（第 13 代）である。しかし、没年は 1995 年、93 歳という高齢であり該当する人物とは思われない[13]。ナツキ君の語る没年（戌年）に注目して考えれば 1960 年に没したパオ・シーヤーノンが最も近いが、「パオ・シャーノン（シーヤノン）」を知っている」、「嫌な人だった」と語っている（20220118b 記録）ことから、候補者からは除外されるであろう。

上記はナツキ君の語った年代や干支が正確であるという前提に基づいたものだが、ナツキ君が「子年生まれだった」（20220103 記録、20220104 メール）と語ったサワイ・サワイセーンヤーゴーンの生年 1904 年の干支は「辰」である。また、1 月 2 日生まれという発言（20220115 記録）が正しいとすれば、曜日は火曜日（20220104、20220106 記録、20220323c）ではなく、水曜日である[14]。

ナツキ君の語る内容についてはかなりの具体性が見られるので、このような食い違いを踏まえ、年代や数字については弾力的に考えた上で調査を行えば、該当する人物が見つかるかも知れない。タイの方や専門家の協力を仰ぎながらさらなる調査を進めたい。

5. 国際事例としての分析

国際事例の報告は多くはないが、詳細な記録のなされている 14 例について分析した James Matlock によると、生まれ変わりの動機としては表 3 に示す 4 つが考えられる（Haraldsson & Matlock, 2016, 234-235）[15]。

表 5：国際事例における考えられる動機[16]

国際事例における動機	事例の数
(1) 家族、友人、同胞のもとに行く	4
(2) 故国に帰る	4
(3) 布教	4
(4) 故国からの脱出	2
(5) 動機なし	0

筆者が調査した、イリギス人としての過去生記憶を持っていたトモ君については、「世界中を探してお母さんが一番よかったからお母さんのところに来た」と語っており、Matlock が挙げるいずれにも属さないが（大門, 2011; Ohkado, 2013）、インド人としての記憶を持っていたアカネちゃんについては、「インドに生まれたのは失敗、女の人が大切にされる日本を選んで生まれてきた」と語っており、Matlock の分類では(4)の「故国からの脱出」の例になるであろう。

本稿で紹介したナツキ君については、母親のアヤさんのことを「過去生で知り合いだったクリーニング店の女性」と語っていることから、(1)の「家族、友人、同胞のもとに

行く」の例と考えることができる。もっとも、アヤさんに過去生記憶はないので、仮にナツキ君の発言が事実だったとしても、タイとの繋がりのないアヤさんがなぜ日本を選んだのか、という動機については不明のままである。

いずれにしても、生まれる場所に関する動機という点において、ナツキ君の事例が既に報告されている事例のいくつかと共通している点は重要であろう。

6. 事例の認知がもたらす「効果」

臨死体験が広く知られるきっかけになったのは、1975 年の Raymond Moody による *Life After Life: The Investigation of a Phenomenon — Survival of Bodily Death* の出版であった。体験者 150 人のインタビューに基づくこの書が臨死体験の存在を広く知らしめ、その劇的な体験を誰にも理解してもらえず肩身の狭い思いをしていた多くの臨死体験者を救うことになった。たとえば、1975 年に雷に撃たれ 28 分ほど心停止状態だった時に臨死体験をした Dannion Brinkley は、体験を語ると周りからは奇異な目で見られ、医師には精神科に送られさえした。その Brinkley が Raymond Moody が「臨床上の死を宣告されながら生還した人たちに生じた現象」というテーマで講演を行うという新聞記事を読んだ時のことを次のように述べている。この時点では、Moody は著書を執筆している途中であり、まだ出版はされていなかった。

> I was excited. For the first time since being struck by lightning, I realized that I was not alone. After reading these few paragraphs, I understood that other people had been up that tunnel and seen the Beings of Light, too. I even had a name for what had happened — a near-death experience (Brinkley, 1994, pp. 73-74).（私は興奮した。雷に打たれて以来はじめて、自分は独りではないということを知った。新聞記事を読んだ後、例のトンネルを通り光の存在と遭遇した人はほかにもいることが分かった。自分の体験に名前があることまで知ったのだ。臨死体験というらしい。[筆者訳]）

この後、Brinkley は Moody の講演に参加し、深い感銘を受けた。講演の後の質疑応答の時に自分の体験について語る機会が与えられたが、それを聞いて興味を持った Moody が Brinkley 宅を訪れ、インタビューを行うことになった。1994 年に Brinkley が自身の体験を出版した際には Moody が序文を寄せている。

Brinkley の著書には、周りに自らの臨死体験を理解してもらえず辛い思いをしていた人物が何人も登場する。それらの人々を救うと同時に、体験の存在を広く知らせることで、死の過程について（少なくともその一側面について）人々の理解を深めたのが Moody の著書であり、その後に盛んとなった類書の出版や臨死体験研究の興隆であった[17]。

過去生記憶を持つ子どもについても、同様のことが言える。2000 年生まれのトモ君が 4 歳になる少し前にイギリスの料理店の子どもとしての過去生記憶を話し出した時には、心配した母親が精神科に連れていくほどであった。その後、同様の子どもが他にも大勢いることを知ったこと、またトモ君自身が、過去生記憶を持つ他の多くの子どもと同じように、過去生記憶を無くし「普通の子ども」になっていったことから、母親の心配は解消された（大門, 2010; Ohkado, 2013）。トモ君はと言えば、中学生になった頃には自分が過去生について語っていたこと自体を忘れてしまったほどであった。トモ君の母親とは数年前に電話で話す機会があったが、幼い子を持つ現在の母親たちが子どもの

語る過去生記憶や中間生記憶について屈託なく話すのを聞いて、自身が子育てをしていた時に現在のように多くの母親が過去生記憶を話す子どもの存在を知っていれば、どれほど気が楽だったことか、また、そのような知識を持っている今のお母さんたちがうらやましい、と語ってくれた。

過去生記憶について語り始めたナツキ君についてアヤさんは心穏やかでない様子だったので、過去生記憶を持つ子どもの一般的な傾向や、トモ君の事例について話をし、拙論（大門, 2010）を送ったところ、後日「心が晴れたように感じます。添付いただきました論文拝見いたしました。あれから先生方の出版されました本や、キャロル　ボーマンさんの子どもはみな前世を語る[18]などを読み、気持ちが楽になるとともに、ナツキの話を真っ直ぐに聞こうと思いました」との報告を受け安堵した。

過去生記憶を語る子どもの存在について、ある程度認知されるようになってきたとはいえ、まだまだ一般的になったとは言い難い。本論文で報告したような事例が数多く報告され、広く認知されるようになること、そしてその結果、子どもの語る過去生記憶に接して親が戸惑うことがなくなる日が来ることを願って、小論の締めくくりとしたい。

注

1. 数字は James Matlock 氏による。
2. トモ君の事例はバージニア大学のデータベースに収録されている。
3. 地図の URL は以下の通り：
   https://www.thailandtravel.or.jp/common/pdf/illustmap_web2017.pdf
4. 柿崎 (2007)を参照。
5. Bowman (1997) は、過去生記憶によって問題が生じている可能性がある場合について、5 つのステップからなる対処法を提案している。
6. バージニア大学知覚研究所の調査方法に従えば、切片化したデータそれぞれについて検証すべきであるが、紙幅に余裕がないので今後の課題としたい。
7. タイの日本軍との関わりについては、柿崎 (2007) の第 4 章を参照。
8. Usa Wongsangkul 氏はナツキ君が語った内容の多くについて、タイにおける生活として極めてありそうな記述であると判断しているが、この点についてもいずれ稿を改めて検討したい。
9. 以下、タイの警察関連の写真は以下の URL で入手されたもの。
   https://goo.gl/maps/1kbnLx5aF3esJ8P49
10. ウィキペディアの歴代の警察長官リストから当該の人物を検索し、生没年を確認した（紙幅の関係で URL は省略）。
11. 仏暦と西暦の変換、干支の確認は web の「仏暦・西暦・和暦・干支 早見表」を用いた（紙幅の関係で URL は省略）。
12. 表に記した以外の警察長官の中にもそれらしき人物は見当たらない。
13. 退職後も上院議員など重要職を歴任している点もナツキ君の記憶とは合致しない。
14. 曜日の計算は以下の CASIO が提供する計算サイトを用いた：
    https://keisan.casio.jp/exec/system/1177638326
15. それぞれの分類に属する事例は次の通りである。(1): (i) オーストリアで死亡し、ブラジルの母方の祖母の姉妹の所に生まれた Yvonne Ehrlich (Stevenson, 1997a)、(ii) イギリス人でビルマの友人の所に生まれてきた Ma Win Myint (Stevenson, 1997b)、(iii)

アイルランドからイギリスの家族の所に生まれてきた Charles S. (Cockell, 2008)、(iv) 中国にある、かつて馴染みのあった家族の元に生まれたとされる現在のダライ・ラマ (Wangdu, Gould, and Richardson, 2000)、 (2): (i) アメリカで死亡し故国レバノンで生まれた Wael Kiwan (Haraldsson & Matlock, 2016, Chapter 6)と(ii) Suzanne Ghanem (Shroder, 1999)、(iii) 硫黄島の戦いで戦死しアメリカで生まれた James Leininger (Leininger & Leininger, with Gross, 2008; Tucker, 2016)および(iv) 朝鮮戦争で死亡しトルコで生まれた Adnan Kelleçi (Stevenson, 2001); (3) (i) チベット僧 Lama Yeshe の生まれ変わりとされ、スペインに生まれた Osel Hita Torres (Mackenzie, 1988)、(ii) カナダに生まれチベットの聖人 Geshe Jatse の生まれ変わりとされた Elija Ary (Mackenzie, 1996)、(iii) フランスに生まれインドで死亡したチベット僧 Khashap Rinpoche の生まれ変わりとされた、Trinley Tulku (Mackenzie, 1996)および (iv) フランスに生まれヒマラヤで修行中に死亡した Zina Rachevsky の生まれ変わりとされた Pierre (Mackenzie, 1996); (4) (i) ドイツのベルゲン・ベルゼン強制収容所で死亡したユダヤ系ドイツ人の記憶を持ちスェーデンに生まれた Barbro Karlén (Karlén, 2000)および (ii) アウシュヴィッツ=ビルケナウ強制収容所で死亡したユダヤ系ギリシア人の記憶を持ちアメリカに生まれた Yael Shahar (ben Malka 2014)。

16. 事例の数について Matlock は(1)を 5、(3)を 3 としているが誤りである。
17. Barbara Harris も、Moody の著書が出版される前に体験した劇的な臨死体験が周りに理解されず、辛い思いをしたことを記している（Harris & Bascom, 1990）。
18. ボーマン(2002)。

補遺：ナツキ君の発言データ

ナツキ君の発言資料として、以下に母親のアヤさんによる(1) メールと(2) 動画、および(3) 論文執筆の過程で追加で送っていただいた記録を掲載する。それぞれのデータについて、筆者が受信した年月日を付した。(1) には「メール」、(3) には「記録」と記し、動画と区別した。また、同一日の動画が複数ある場合には a, b, c, ...で区別した。

20211113 記録	昔の携帯はとんがっていた（無線のようなもの？）　昔のテレビは今よりも形は四角い。今は長四角。
20211115 記録 a	前のバスは前の上の方にぷーぷーってなるやつがついていた（前方の屋根の方にクラクションのようなものがついていた。）
20211115 記録 b	前世の父親も警察官だった。それで自分も警察官になった。前世の父親は、前世の自分が大人になったころ、嵐の中、車を運転し亡くなった。
20211119 記録	死ぬときは、足のつま先からスーッとなっていく。前はお箸とスプーンを使うけど、フォークとナイフは使わない。カレーがおいしかった。お箸はママたちが子どもの分を作るねん。割りばしみたいなお箸。お箸は太い枝を取ってきて削って作るねん。
20211126 記録	飲むものはお茶か水ばかり。牛乳は自分で絞らないといけない。
20211202 記録	前は信号はなかった。道路は砂の道やから、道路みたいな線もなかった。
20211204 記録	みかんじゃなくて、オレンジを食べていた。昔はおもちゃは無かった。自転車も無かった。子どもは畑で穴掘って遊んでいた。

20211208 記録 a	ゾウの赤ちゃんが生まれたら檻を作らないといけない。ヤギの赤ちゃんが生まれた。ヤギのオスが死んで、ヤギは 2 匹のままだった。警察の仕事が休みの日は、動物の世話をしていた。
20211208 記録 b	1 月生まれやから、いつき。（名前に 1 月という意味が入っていたのかも？）
20211213 メール	雨は全然降らなくて、降る時にはたくさん降る。（雨季と乾季がある？）道路はコンクリートではなく砂の道。家の近くの道に信号があり、そこだけコンクリート。前のママは今のママより肌が白かった。（今の）妹のように白かった。目の中は濃い茶色で髪は黒かった。みんな今の人と変わらない。話していた言葉は英語ではないが、警察の車、トラックには POLICE と書いてあった。勤めていた警察署の建物は 5 階で、角がある形になってて、隣には牢屋があった。
20211216 記録 a	タイの田舎の家の画像を見せると驚くほどの反応があった。「昔の家はシャッターみたい」とずっと言っているので、タイの田舎をネットで検索し、画像を見せると、竹でできた壁を見て「これ！家はこんな感じだった！」と反応。トイレは数あるネットの画像の中から 6 角形の形のものを見つけて「これ！」と言う。その後、突然「トイレは家から離れたところにあった。」と言う。
20211216 記録 b	家の近くにお店もあった。キャンプのテントとか売っていた。テントは三角じゃなくて四角。ほかにもバーベキューに使うようなものも売っていた。今と同じものもあるし、違うものもある。
20211217 記録	なつきは、1 月生まれやったから「いつき」。1 月生まれだから「いつき」！　うそじゃない！！！
20211218 記録	タイのお寺の画像を見ると「これお墓」と言う。
20211220a	タイの地図をみながら記憶している場所を示す。
20211220b	上からお腹の中にしゅっと入った。100 人が上からしゅっと入り、残りの 100 人は次に入る。
20211220c	世界遺産の写真を見て記憶にある場所を示す。
20211220d	タイの地図をみながら、生まれた場所、警察のあった場所を示す。
20211220e	自衛隊の人みたいな格好をしてて、悪い人を捕まえようとしてたら、海（川？）で溺れて二回目は死んだ。（死んだあと）上から行って、人間に化けてきた。早いもの勝ち。その時、○○（妹）と一緒のところに生まれような、って約束してた。
20211221	地図を見ながら警察学校の場所を示す。
20211221 記録	タイ語：happiran（わくわくするところ）と発言。
20211225	自分の名前について：itsuki
20211227a	タイ語：adwin（「記録」による補足：強い警察の人。男の人）
20211227b	タイ語：eksen（家に来る）
20211231	タイ語：hawin（警察学校の名前）
20220101a	タイの泥棒が日本に逃げた。日本のパトカーの方が遅いから。どれくらい昔かはわからない。どれくらい昔やろ？　と思うくらい。飛行機で持ってきてもらった（泥棒を連れてきた？）から、飛行機はあった。
20220101b	タイ語：pon tam ek（「記録」による補足：自分は pon [tam] ek だった、と何度も繰り返す）、wat（警察学校の名前）、自分の名前は ◯◯itsuki
20220101c	pontam egg、警察の隊長がそう呼ばれていた。
20220101d	昔は盾を売っている場所に銃や剣も売っていて、それを泥棒が買っていって、（対抗するために）警察も盾、剣、銃を持つようになった。

20220101e	日本の警察官が来てくれて（悪い人を）追跡し、捕まえた。（「何で日本って思ったの？」という母親の質問に対して、「そう思ってない。本当に日本やったの」と主張）。生きている時は飛行機で旅行する人もいた。日本だけ刀持ってる警察がいた。ママ、前生きてた？　って聞いてもわからんよな。ママ、覚えてないから。ママも昔生きてたよ。一緒のお仕事行ってたよ。一緒の場所にいた。（「前のママも可愛かった？」という母親の質問に対して）今のママよりは優しかった。何の仕事してたかわからん。（名前はわからない様子。）
20220103 記録	（サワイ・サワイセーンヤーゴーンの写真を見ながら）なつきとサワイはポン　エークだった。一緒に隊長をしていた。（サワイ・サワイセーンヤーゴーンの写真を指して）この人は（国名を）ターイと名前を決める時には一緒にいなかった。なつきは丑年やったサワイは子年。なつきがお参りしていた神様は、立っていた。寝たり座ったりしていない。
20220104 メール	今は戌だが前は丑だった。サワイセーヤーコンは子年。アドウィンさんは自分の一つ前の曜日生まれ。自分が火曜日生まれ。「（今年は 2022？　なつき未来に生きてたん？　昔やのに、2022 なん？」と不思議そうに語る。タイ暦のことを話していると気づき、数字を見せると 2444 の辺りで線を引き、前のママが生まれたらへん、と語る。
20220105a	ヘリを操縦できるチケット（免許）を持っていた。警察の時もヘリ使ってたから。だから空の軍に、って言われた。
20220105b	（TMT と発言し、「何の話？」と訊かれて）危険な種類の中。危険な爆弾。TMT っていう爆弾の種類の名前がある。それを投げるとすごいことになる。そこだけ燃えて、そこだけ爆発する。爆発しない TMT もある。燃えない TMT もある。燃えないけど、ボコっと穴ができる。飛んで道路のやつが飛んでいっちゃう。（道路の）下に埋めるから、穴ボコができる。強いやつは「ボーン」ってなる。嫌いだった。人殺しすぎたら、世界が壊れちゃうから。でも泥棒を捕まえるために「ボーン」ってした。
20220105c	カンボジアはタイの隣で、そこに泥棒が逃げたことがある。そこにパトカーで捕まえに行った。
20220105d	タイ語：kupon（お寺の名前）
20220105e	軍隊に誘われたこと、爆弾や空軍のことなど
20220105f	そんなに強いなら軍隊に入りなさい、って言われた。原子爆弾（？）100 個も持ってた。原子爆弾、いっぱい持たされた。そんなに強いなら、いっぱいあげるって。タイに遠いところがバーンって爆発や。（地図を見ながら）ヘリでここからここまで行ってバーンってやった（爆弾を落とした）。めっちゃいっぱいにおいっちゃったから（どこの国か）わからない。日本にも置いた。（フィリピンを指しながら）それで、ここにいた人、ここにいた軍隊が死んだ。
20220105g	（昔の警察隊の隊員の写真を見ながら）この人は知っている。名前は覚えていない。（勲章を見て）このマークはアドウィンさんのマーク。アドウィンさんがつけてた。（警察犬の像を見て）昔の警察の犬はめっちゃいい。最初からいい（訓練しなくてもいい？）。〇〇（不明）もいいし、捕まえるのも早い。
20220106 記録	火曜日生まれだと次のママに伝えるために絶対に忘れてはいけないよと言われた。
20220107 記録	タイ語：diant（どこかの国と思われるような発言）
20220112 記録	なつきが前に生きていた時、生まれた時から戦争をしていた。タイは大きくなりたかった。広げようとしていた。だから戦争をしていた。日本は初めは敵だったけど、途中から味方になった。みん

	なで、日本軍をヒーロヒーローと言っていた。アメリカは敵だった。旗？どこの国の旗かは、公文のトイレで覚えた。だからどこの国かも分かった。アジアをタイが攻めていた。
20220113	日本と戦ったが途中で仲間になって一緒に戦った　日本軍の人をヒーローと呼んでいた
20220113 記録	なつきの前の家族は、姉が救急車の運転手。妹が消防士、姉に会えるからその仕事にした。弟は警察官。でも、弟は軍にはいかなかった。なつきに会えるから警察官になった。子どもは赤ちゃんが生まれるから買い物が必要で日本軍人に家を守ってもらっていた。タイ軍は弱かった。だからゾウを使うことにした。誰かが言い出した。なつきも賛成した。ドイツもゾウを使っていた（インドのことか？）。
20220114 記録	ピッチャルーかドウアンヌン　丑年か、1 月が自分の名前に入っていた。
20220115 記録	タイの数え方を間違えていたのを思い出した。なつきの誕生日は 2444 年の 1 月 2 日。なつきが死んだのは戌年。
20220116 メール	自分の名前は「ピジョ（または、ピチャ）～～イツーキィ」（真ん中は思い出せない）と言う。
20220116a	（昔の警察の写真を見ながら）これは軍の人と警察の人の帽子。警察官の帽子は 3 種類あって、それ以外は軍のもの。
20220116b	（昔の警察の写真を見ながら）ここに行かないとわからない。4 つのタイヤのトラックとか、6 個のタイヤのトラック（以前、6 個のタイヤのあるトラックがあると言って絵を描いていたが、実際にそのようなトラックがあることが判明）。（座っている兵士たちを見て）日本の兵隊が助けてあげているところ。[次に慰霊碑の写真があり、the war brought love and bond together between the Thais and Japanese soldiers.とあることから事実だと思われる。]
20220116c	（昔の警察の写真、武器を見ながら）これは罠、しかけのやつ。（帽子の星形のマークを指さして）これは（軍ではなく）警察。このマークで見分ける。
20220116 記録 a	アンドコさんにポン　エエクになりなさいと言われた。
20220116 記録 b	人は死んだら一度地面の下に行く。カエルの卵みたいに下にいる。そして、生まれたいと思った人が空の上に行く。そんでママを選ぶ。やっぱり生まれたくないと思ったら、また地面の下に行く。ママを選んでもお腹に入れなかった人はまた空の上に行く。
20220117 記録	アンドコさんは 7 番目の人。7 番目に賢い人。7 番目になったすごい人。
20220118a 記録	ドイツ（インド？）もゾウに乗っていた。なつきもドイツに行った。前のママがドイツが好きだったから。肌の色は黒かった。あっ、インドか！　インドの言葉も勉強していた。ママと一緒にインドに行くから。インドの人はタイの味方だった。ゾウは敵を鼻で人の首をしめたり、踏みつける。
20220118b 記録	（ネットで写真を見て）パオ・シャーノンを知っている。なつきが警察官になったときに、パオ・シャーノンが 1 位になっていた。1 年間ですごかった警察官を決めるのがある。それの 1 位。なつきも 1 位になった。1 位になったら写真を撮るんやけど、30 歳くらいの時になつきの写真がなくなったことが分かった。もう、燃えちゃっているし、撮り直すとほかの人がずるいと言うし、ごめんなさいって、それだけ。なつきめっちゃ悲しかった。なつきの写真だけないねん！　パオ・シャーノンは嫌な人だった。警察をいじめる人。嫌や。嫌い。いつも意地悪されてた。（プラヤーワーステープ警察少佐の写真を見て）この人も警察官をいじめる人。それを教えたのがこの人（パオ・シャーノンの写真を見て指す。）

20220120 記録	ジーンダーイ警察にアドウィンさんがいた。ジーンダーイは「強い」ってこと。タイ語やけどはっきりしたタイ語は忘れてしまった[タイ語で「強大な」を意味する ยิ่งใหญ่ [Yìng h̄ıỳ]は「ジーンダーイ」のように聞こえる]。ポン　エエク、ローイもあった。軍の人はほとんどがローイだった。
20220126 記録	「ママのお腹に入る前に誰かに青い箱にリボンがついたプレゼントを渡された。なかなか勇気が出なかったからなつきにくれた。」。「それは何？」と訊くと、「青いボール。お腹の中で遊ぶのに。生まれてきたらなくなった」と返答。
20220130 記録	（北朝鮮のミサイル速報がテレビに出た時）なつきが自衛隊　撃たれたやつ回収に行かないと。ミサイルとか撃たれたらショベルカーみたいな回収するやつがある。昔からある。なつきの前の時もあった。ヘリについているミサイルはお花の形みたいに丸く周りについている。真ん中は銃。
20220208 記録	なつきが警察をなくさないように言った。警察が必要って！　泥棒が来た時にどうするんですかって。それまで警察はなかった。村の人が代わりにやっていた。なつきの家は竹でできていて、シャッターみたいな壁。部屋がいくつかあった。5 個くらい。
20220224a	タイ語：abin（この時点では意味は不明）。木で作られていて、硬くて、フライパンに使われてた。硬く作ったやつを abin と言う。
20220224b	暑かったからみんな半袖を着ていた。銃を持っている人だけ長袖を着ている。
20220224c	ヘリに乗って空から爆弾を落とした。（爆弾の形について手で表現）お花みたいな形。ミサイル撃つところについている。
20220225 記録	（ウクライナへのロシア侵攻のニュースが頻繁に流れる。空爆警報の音が流れた時）あっ、逃げなきゃって鳴ってる。なつきもヘリも飛行機みたいなもんでもなんでも乗っていたで。なつきは勝手に攻撃はしてない。向こうが攻撃してきたからやられたってなって攻撃してん。なつきも前に水泳習っていた。いつも練習はプールでするけど、テストは川に行ってした。前は泳ぐの得意やったけど、今は違う。
20220303 記録	昔は竹の家はミサイルや鉄砲で打ってもなかなかバラバラにならなかった。曲がったくらい。竹の家は丈夫だった。部屋はもっと丈夫だった。ヘリは飛行機より低いところを飛べる。だから使いやすい。飛行機は高くで飛ばないといけない。
20220308 メール	ロシアによるウクライナ侵攻のニュースを見て記憶が溢れてくるようで、作戦にやたらと注文をつける。先日、タイの観光地の番組で、あの建物は台風で壊れた、あの建物は台風で水の上になった。あれ食べてた（オオトカゲ）と言う。以前、ウミガメの卵を砂浜から掘り出して食べていた、と語り、ウミガメが砂の中に産卵することを知って驚く。
20220308a	ナツキが大人になったら、ともだちが子供になったから、今、タイで生きてる。名前は忘れた。友達がまだ二人いる。（タイ時代の友達が生まれ変わった、ということらしい。）
20220308b	（一生懸命身振り手振りを交えて説明してくれる。ナツキ君の中では明確なイメージが描かれている様子。）カーブにある、橋に使われている、真っ直ぐ真っ直ぐ、横に隠しておいた。真っ直ぐ撃たれないように。前の空港と船のところは大きかったから全員がまとまっていた。警察と消防とレスキューはそこに訓練するところがあった。だから狙いやす。（狙われやすい）。だから脱出するところは空港の中になった。ご飯とかおもちゃとか買えるようになった。逃げる時はおもちゃを買って逃げる。食べ物も買って逃げる。逃げやすいから買っていける。でもドアが二個あった。ここと、もう一個を通過していくから、真っ直ぐいったらまたここ。だから狙われやすいから、でも逃げるのは遅いから狙われやすかった。でも、そこにはトイレはあったけど、トイレに入っている人には、に（トイレは）2 箇所あって、こっちは普通のトイレ、こっちは早く逃げるためのトイレ。温泉（お風呂？）もつないであった。だから、狙われやすいし、逃げやすいし、どっちも。でもお

	菓子も買えるし、電気屋さんもあるし、何でもある。めっちゃでかい。無限分ある。避難所もある。でも建物は硬い。でもマグマには強いけど、火山には強いけど、普通はそんなことない。このおうち（今の家）もそうやろ。そやけど、火山にも強いから避難所にも使われていた。全部がまとまっているから、でも銃には、ミサイルには負ける。何かもやられてばっかりやったら負ける。100 回くらいやられたらもうやられる。海のそば。ここに飛行機が通れる真っ直ぐの道路もあった。遊園地みたいな遊び場もあった。公園より大きい。そこの空港に消防署もあるし、警察署もある。警察と消防がそこで訓練してた。消防と警察と硬かった。車は硬かった。マグマにも負けない。警察署で消防署の順番。病院もあった。警察署には牢屋もあった。お店ぐらいでかかった。
20220308c	タイ語：abin（凧の一部、ペラペラの abin）(cf. 20220224a)
20220309 メール	（筆者の送ったタイの凧の写真を見せたところ）話をしだす。アビンついてる？と訊くと「これはどこにでもある凧やで。アビンがついている凧は珍しい凧で、大人用の大きいねんで」と話しだす。
20220309	（タイの凧の写真を見ながら）この凧には abin はついていない
20220313	（母親が数日前に見せた写真の凧は「チュラ凧」と言うことを伝えると）大人の凧は fraf という。前言ったように、こっちは fraf、小さい方は churaf。Churaf と fraf があったが、別れている意味がない。書いてなかったら、名前が別々じゃないと意味がない。（？）間違って買ったけど、お金はまだ出してない。間違えたから別れた。サイズはほとんど一緒やけど。（？）
20220323a	みんなに gao と言われていた（意味は分からないが、あだ名）
20220323b	気がついたら、みんなが自分を gao と呼んでいた
20220323c	軍の撃ち合いのこと、戦争のこと、前はお金持ちだったことなど。自分は丑年生まれ。4 が三つ、0 が一つの年に生まれた。曜日は火曜日(?)　お参りしていた神様は立っていた（寝ていない、座ってもいない）。昔の携帯（カメラ？）の話
20220329 メール	「タイではなぁ、赤ちゃんがいる人は小さい所では診てもらったらあかんねん。赤ちゃんいる人は大きな病院にいかなあかんねん！」と言う。古い民家に住む実家の祖母がナツキ君を驚かそうと思って昔はトイレはボットン便所だったという話をすると、「知ってる、知ってる！　下に落ちたらここまで埋まってしまうねん！　深いねん。だからなあ～子供とかが落ちないように前にバーがあるねん！　ナツキもなぁ、怖かったわぁー」と言って逆に祖母を驚かした。母親がタイの観光地を紹介する web ページに掲載されていた壺の写真を見せたところ、「発掘されたものだ」と遺跡の話をする（調べたらその通りであった）。「ヘリの操縦は分かる、ヘリを操縦したい」と言う。
20220409 メール	以下の動画の説明のほか、免許のようなものを「チケット」と呼ぶ。（以前はそう呼ばれていたのかもしれない。）タイ語はわからない、といいながら、数字や良い意味・悪い意味の語はなんとなく分かる様子を見せる。
20220409a	（ロイクライトン祭りの画像を見て）空にいる（死んだ）人の祭り。神様とは別。神様は島にいる。
20220409b	（ロイクライトン祭りの画像を見て）自分が死んでからは、もうダメ（？）これは海に続く川で、流すとどこかの島にたどりつく。神様が集まっているところがある。そのための祭り。
20220409c	コーンのおいしいお店があり、コーンちゃんと名付けられていた。それは一生変わらない（？）
20220409d	以前オラス（ラオス？）に住んでいたかも。大人になった時にタイに引っ越した。ママがタイが好きだったから。コーンちゃんというお店が好きだった。街の中に引っ越した。街の名前は忘れた。
20220409e	空に打ち上げられたものをキャッチした人（魂）が生まれ変わることができる。自分はキャッチしたから生まれてきた。

20220414 記録	（タイのお祭りの写真を見て）死んだ人にお墓に立てる建物。悪いことが起こらないようにするお祭り。流すと海に続く、神様が集まっている所がある。神様が住んでいる所は発見できひん。だから、海に続く川に流している。（別の写真で）空にいる人のお祭り。火を空にうち上げて死んだ人のおまつり。神様と死んだ人は別のところにいる。空に打ち上げた火をキャッチしたら生まれ変われるねん。
20220509a	タイに「タイ」という魚がいる。
20220509b	人間は人間に生まれ変わる。魚が人間に生まれることもできるけど、大変。マシーンに魂を通さないといけない。魚を切って魂を取り出して、マシーンに入れる。そうすると人間に生まれることができる魂になる。
20220509c-g	図鑑を見て、知っている魚について詳しく話す。食べられる魚、食べられない魚、魚の食べ方についても詳しく話す。（海のない県在住で海に行ったこともないのに魚に非常な興味を持ち一生懸命に話す。）
20220530 メール	釜飯の釜を見た祖父が「昔はこうやって火でご飯炊いてたんやで」と言うと「それくらい知っている」という顔で話を聞く。後で話を聞くと「ご飯はキャンプみたいして食べていた。キャンプに行っているわけちゃうで、テントでは寝ないけど、毎日焚き火みたいにして食べる。竹に入れてな。お風呂も竹で出来ていた。自分で作ったり、買ったりする。竹を繋げてお風呂ができる。だけど、すぐに壊れる。そんなに高くはないからまたすぐに買えるんやけど、長持ちはしない。
20220530	竹を丸につなげてご飯を入れて炊く。竹と竹を繋げるものがあった。
20220604 メール	ご飯の炊き方は二つあった。竹に詰める時は池の水を使っていた。（記憶が無くなりつつあることを自覚しているようで）みかん組（2 歳児クラス）、年少の時はたくさん覚えていたのに。（ママに）言おうか言わないでおこうかずっと悩んでるうちに年中になってしまった。雲の上での記憶の方が鮮明。前に生きていた記憶はさらに薄くなる。雲の上に行った時点で、前の記憶はほとんど無くなる。（今は）死ぬ少し前の記憶くらいしか覚えていない。死んだら、しばらくの間、透明になってウロウロできるから、そのときにママがナツキを産んでくれたら、いっぱい記憶を持って生まれてこれたんちゃう？　雲の上に行っちゃったからなー。ってか、ママさぁ〜、次産まれる時にはタイに生まれるって言っていたのに結局また田舎（？）やーん。言ってることと違うやーん。（母親は過去生でも同じ町で暮らしており、クリーンニング屋でナツキ君の過去生の人物の警察服を回収しに署に出入りしていたとのこと。「そんな所をそうじしなくてもいいのに」という場所を掃除する人だ、とも。）（「ご飯を竹に入れて炊く」という「20220530 のメール、動画」を受けて筆者が送った Thai Street Vendor Sticky Rice in Bamboo と題する動画（https://www.youtube.com/watch?v=bwJ0LTeZlSA）を興味深そうに 30 分〜1 時間見続けていた。）
20220707 メール	（過去生のクリーニング店の女性 [現在の母親]の絵を描く）後に留める金具がついているエプロンを着ていたが、今のエプロンとは違う。足にはサンダルのようなものを履いていた。髪は真ん中でくくっていた（母親はナツキ君が生まれてから髪の毛を伸ばしたことはない）。（建物の絵を描く）国の名前を「タイ」と決めたときに隊長たちが集まった建物。外に屋上に行くためのハシゴがあり、右側にはヘリが止まる事ができるスペースがあった。
20220716 メール	過去生の誕生日は仏暦 2444 年（西暦 1901 年、明治 34 年）1 月 2 日。もうちょっとでねずみ（年）だったのに。(cf. 20220104 のメール）

20220730a	生まれたいっていう人を探してしゅんとおなかに入る。（詳しいことは忘れた）みんなでママ探しをする。自分も今のママを探した。空の上から窓とかで見る。外に出てきてる時を見てる。選ぶのは遅くも早くもなかった。同じママを選らんだ場合、早いもの勝ち。5 人で競争した。
20220730b	戦争が終わって、警察の仕事に戻って、警察のボートで（泥棒を）捕まえに行ってたら、川に落ちて死んだ。死んだ時には他にも警察の人がいた。（なぜ落ちたかは分からない様子）時間は昼。死んだ後、最初は下（地面の下）に行き、長いことそこにいたら雲の上に行く。
20220926 記録	タイには夏はあった。それは覚えている。冬はあったかどうかは覚えていない。わからない。なつきは前に警察だったから、川によく人を助けに行っていた。危ないところに入る人がいた。橋の下に・・・橋から降りて入るんよ！　危ないやろ？　裸で水着だけ着て入るんよ！　そういう人を助けに行っていたから、夏は覚えている。夜にプールに入る人もいた。捕まえに行っていた。
20221008 メール	過去生のママはクリーニング屋でエプロンをつけていた。足はサンダルを履いていた。警察官でヘリコプターを操縦していた。ポンエーク（？）で、本名ではない「ガオ」と呼ばれていた。
20221008a	お空の上でタイのことはほとんど忘れた。今はタイのことをめっちゃ忘れた。
20221008b	（タイの竹あみに乗せたご飯の写真を見て）前のパパはこっちしてた。竹に詰めるのは時間がかかるので、時間のない時はこっち。
20221008c	（過去生で）今のママはクリーニングしていて、服は汚れてもいい服を着ていた。ママはタイの街に住みたい、って言っていた。自分は街がよかったが、過去生の母親が決めて田舎に引っ越した。
20221009 メール	川が怖い。川も小さかったらいいが、大きい川は嫌だ。行きたくない。川で死んだから！　海も嫌いだなぁ、海の水って何か塩っ辛いやん？　あれがヤダ。砂浜は行きたいけどな（海に行ったことはない）。
20221106 記録	キリンやゾウとかの大きい生き物は数が少ないからすぐに生まれないといけない。前に生きていた時にはアリやクモがたくさんいた。ムカデはあまりいなかった。ムカデは暑すぎると出てこないやろ？　少しはいたけど、たくさんはいない。ずっと暖かった気がする。夏はあったけど、冬があったかどうかは覚えてない。ずっと半袖だったと思う。
20221224 記録 a	空の上にいるおじいさんみたいな人に早く生まれなさいと言われた。その人は、みんなと同じお化け（魂）の形をしているけど、ずっと空の上にいる人。（自分は）やり直しって言われたけど、何をやり直すねん。生まれることもやり直しみたいなもんやん。なんでやろ？
20221224 記録 b	戦争は大きな国から始まって、中くらいの国、小さな国と広がった。大きな国が戦争を辞めたから戦争が終わった。

謝辞

本研究は中部大学の倫理審査委員会の承認を受けています（承認番号 20220002、「出生前記憶を語る子どもの実態に関する調査」）。調査に協力してくださった板倉努氏、Kiat Chanyavilas 氏、James Matlock 氏、Usa Wongsangkul 氏、そして何より、ナツキ君と母親のアヤさんに深く感謝申し上げます。

参考文献

大門正幸 (2011).「過去生の記憶」を持つ子供について ― 日本人児童の事例 ―.『人体科学』20(1), 33-42.

大門正幸 (2012).「過去生記憶」を持つ子供 ― インド人としての記憶を持つ日本人女児の事例 ―.『人体科学』21(1), 17-25.

大門正幸 (2021).『「生まれ変わり」を科学する：過去生から紐解く「死」、「輪廻転生」そして人生の真の意味』桜の花出版.
柿崎一郎 (2007).『物語 タイの歴史 ― 微笑みの国の真実』中央公論新社.
ボーマン、キャロル／坂本貢一訳 (2002).『子どもはみな前世を語る』東京：PHP 研究所.（Bowman, C., 1997 の翻訳）
ben Malka, O. (2014). *A Damaged Mirror: A Story of Memory and Redemption.* Kasva Press.
Bowman, C., (1997). *Children's Past Lives: How Past Life Memories Affect Your Child*. Bantam.
Brinkley, D. with Paul Perry (1994). *Saved by the Light.* Villard Books.
Cockell, J. (2008). *Journeys Through Time: Uncovering My Past Lives*. Piatkus.
Haraldsson, E. & Matlock, J. (2016). *I Saw a Light and Came Here: Children's Experiences of Reincarnation.* White Crow Books.
Harris, B. & Bascom, L. C. (1990). *Full Circle: The Near Death Experience and Beyond*. Pocket.
Karlén, B. (2000). *And the Wolves Howled: Fragments of Two Lifetimes*. Clairview.
Leininger, A. & Leininger, B., with Gross, K. (2009). *Soul Survivor: The Reincarnation of a World War II Fighter Pilot*. Grand Central Publishing.
Mackenzie, V. (1988). *Reincarnation: The Boy Lama*. Bloomsbury.
Mackenzie, V. (1996). *Reborn in the West: The Reincarnation Masters.* Marlowe.
Moody, R. (1975). *Life After Life: The Investigation of a Phenomenon — Survival of Bodily Death*. Mockingbird Books.
Ohkado, M. (2013). A Case of a Japanese Child with Past-Life Memories. *Journal of Scientific Exploration*, 27(4), 625-636.
Ohkado, M. & Ikegawa, A. (2014). Children with Life-Between-Life Memories. *Journal of Scientific Exploration*, 28(3), 477-490.
Shroder, T. (1999). *Old Souls: The Scientific Evidence for Past Lives*. Simon & Schuster.
Stevenson, I. (1997a). *Reincarnation and Biology: A Contribution to the Etiology of Birthmarks and Birth Defects. Vol. 1: Birthmarks*. Prager.
Stevenson, I. (1997b). *Reincarnation and Biology: A Contribution to the Etiology of Birthmarks and Birth Defects. Vol. 2: Birth Defects and Other Anomalies*. Prager.
Stevenson, I. (2001). *Children Who Remember Previous Lives: A Question of Reincarnation* (revised edition). McFarland.
Tucker, J. B. (2016). The Case of James Leininger: An American Case of the Reincarnation Type. *Explore*, 12(3), 200-207.
Wangdu, K. S., Gould, B. & Richardson, H. E. (2000). *Discovery, Recognition and Enthronement of the 14th Dalai Lama*. Ltwa.
Wongsangkul, U. (2021). Rebirth in Theravāda Buddhism and Dr. Ian Stevenson's Resaerch Study. *Journal of International Buddhist Studies College,* 7(1), 37-53.